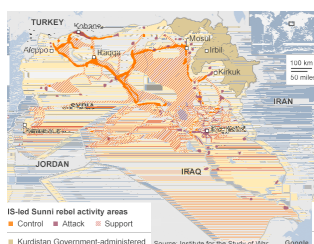


## なぜ過激派集団ISは古代遺跡を破壊するのか

2015. 3. 20.

位野花 靖雄

世界遺産ハトラの遺跡を含め、メソポタミヤ文明の遺跡がISの手で次々と破壊されていると報道されてきました。ISも自身の動画で破壊行為を伝えています。



IS 支配地域

ISがカリフを宣言した北部イラクからシリアにかけての地域は、古くから「肥沃な三日月地帯」として知られています。メソポタミヤ文明の揺籃の地であり、数多くの民族・文化を育んできた場所です。現在も、アッシリア人、カルディア人、アルメニア人、ヤズディ教徒、クルド族など多くの少数民族・数多の宗教が共存している地域です。

### 文化遺産破壊の歴史

世界史を振り返ってみると、遺跡を破壊する行為はISが最初ではありません。エジプトの遺跡で、王の肖像や王朝名が次の支配者により削り取られている遺跡をご覧になった方もあるでしょう。8世紀東ローマ帝国が聖像（イコン）廃止を決めたところに端を発した聖像破壊運動など枚挙にいとまがありません。

記憶に新しい破壊行為では、アフガニスタンのバーミヤン石窟がターリバンにより爆破され出来事がありましたし、もう少し時計を巻き戻すと、中国の文化大革命で貴重な文書・文化遺産が燃やされ破壊されたことが思い出されます。



爆破前のバーミヤン石窟  
と爆破の瞬間

このような破壊行動の動機として宗教・権力闘争などがあげられていますが、ISのケースではイスラームの教義 すなわちイスラームでは偶像崇拝が禁じられていることをISは破壊の理由にしています。

はたしてそれだけが理由・目的なのでしょうか？

## 文化・文明浄化

特定の民族集団を強制的にある地域から排除しようとする行為を民族浄化といわれていますが、I Sは民族ではなく自分たちが主張するイスラームを信じない人々を、すべて排除・浄化しようとしています。多文化との共存は論外なのです。



I Sが支配地域で行っている手法は、多くの人々を虐殺すると同時に、支配下の住民に①イスラームへの改宗 ②人頭税課税 ③移住の何れかを選択するように迫り、暴力・嫌がらせなど相手が恐怖・嫌悪などを感じるあらゆる手段を使って実現しようとしています。

I S公開処刑：I Sビデオ

住民としては、心の支えとしてきた宗教を捨てることは考えられないでしょう。日々の食糧を手に入れることすら難しい中で税金を払うことも不可能でしょう。結局 着の身着のまま泣く泣く住み慣れた土地を離れざるを得ないのが現状です。

このようにして人々を追い出しても、この地域はメソポタミヤ文明発祥の地であり、各地に多くの遺跡があります。それらはイスラーム時代の遺跡ではなく、後で触れますが「無明時代」の邪魔な産物でしかないのです。住民を追い出し遺跡を破壊\*し、すべてを「更地」にして、そこに自分たちが理想とするイスラーム法に基づくカリフを建設することを目論んでいるものと考えられます。

\*モースル博物館の破壊風景がI Sのビデオで紹介されていますが、画面に出てきた破壊の対象となった展示物の多くはレプリカ（複製品）です。本物の展示品は、I Sが略奪・密輸し軍資金にしたものと推察されます。世界遺産ハトラについては、ブルドーザーを入れて破壊したといわれていますが、破壊の規模は不明です。



モースル博物館破壊風景：I Sビデオ

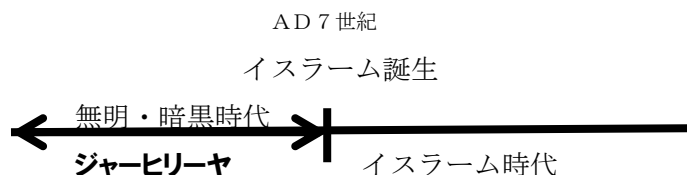
NHK

彼らをこのような動きを駆り立てているのが、ジャーヒリーヤという歴史観だと思います。

## ジャーヒリーヤ

元来ジャーヒリーヤとは、預言者ムハンマドが現れる前、すなわちイスラーム教が誕生

する前の時代のことを意味するイスラーム教徒の伝統的・宗教的時代区分です。  
ジャーヒリーヤとは無明・無知を意味する言葉で、イスラームを知らない状態の社会のことを言います。



イスラームが誕生する前のアラビア半島は、部族ごとに信じる神を持つ多神教で、偶像崇拜が一般的であり、また部族間の抗争が絶えない世の中が乱れ墮落した暗黒・無明の時代だとの認識です。

しかし、現在ISを含む多くのイスラーム過激派に広がっているジャーヒリーヤ理論は「イスラーム社会以外の社会はすべてジャーヒリーヤ社会である。**ジャーヒリーヤ社会とイスラーム社会とは共存できない。そのためにはジハード(聖戦)を起こしてジャーヒリーヤ社会を破壊せねばならない**」であり、この思想に基づいて彼らは行動しているのです。

そこには他の文化・文明に対する配慮・理解は一切ありません。過去とのつながりを持つ貴重な文化遺産を破壊・抹消することなど、取るに足らないことなのでしょう。